

baby lock
COMPANION 4000

ご使用のてびき

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「ご使用のてびき」をご使用前に必ず
お読みください。

また「ご使用のてびき」は手元に保管し、
末長くご活用ください。

ベビーロック
コンパニオン

このたびは、お買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線縫いやジグザグ縫いはもちろん、ホームソーイングに必要な縫いが簡単にできる家庭用電子ミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「ご使用のてびき」をよくお読みください。
「ご使用のてびき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.



警告：感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - ミシン使用中に停電したとき



注意：感電、火災、けがの原因となることがあります。

1. フットコントローラーの上に物をのせないでください。
(電子ミシンの場合は、フットコントローラーはありません。)
2. お客様自身での分解・改造はしないでください。
3. ミシンの操作中はカマカバー・面板などのカバー類は必ず閉じてください。
4. ミシンの操作中は、針元から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。ご了承ください。

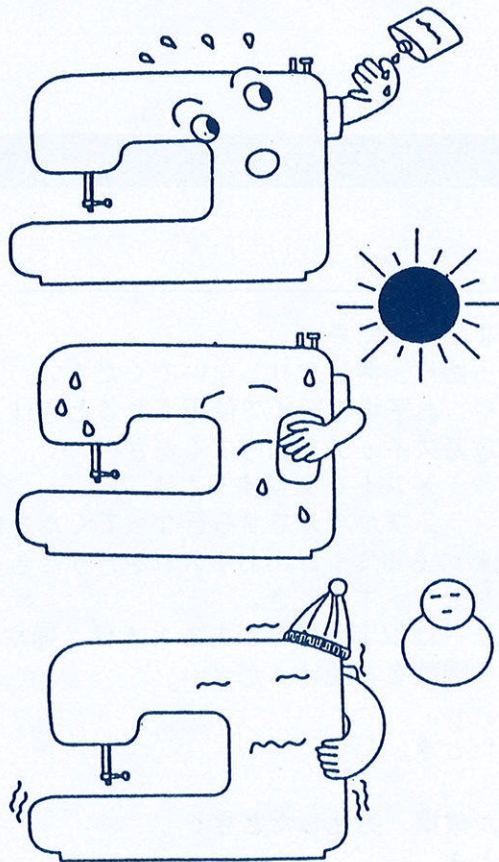
5. 曲がった針はご使用にならないでください。
6. 裁縫中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用される場合は、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
 - ・針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき。
 - ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行なってください）。
 - ・「ご使用のてびき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - ・原則として上糸・下糸をセットするとき。
9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にご連絡の上、点検・修理・調整をお受けください。
 - ・正常に作動しないとき。
 - ・落下などにより破損したとき。
 - ・水に濡れたとき。
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。

- 直射日光に当たるところや、高温多湿のところには長時間置かないでください。

- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



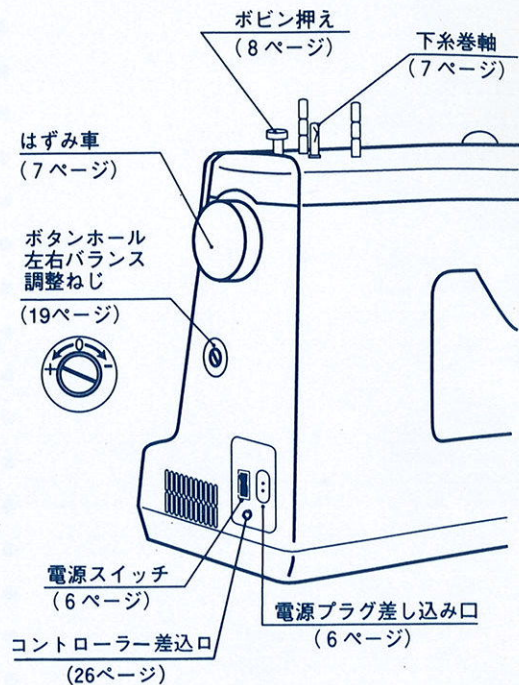
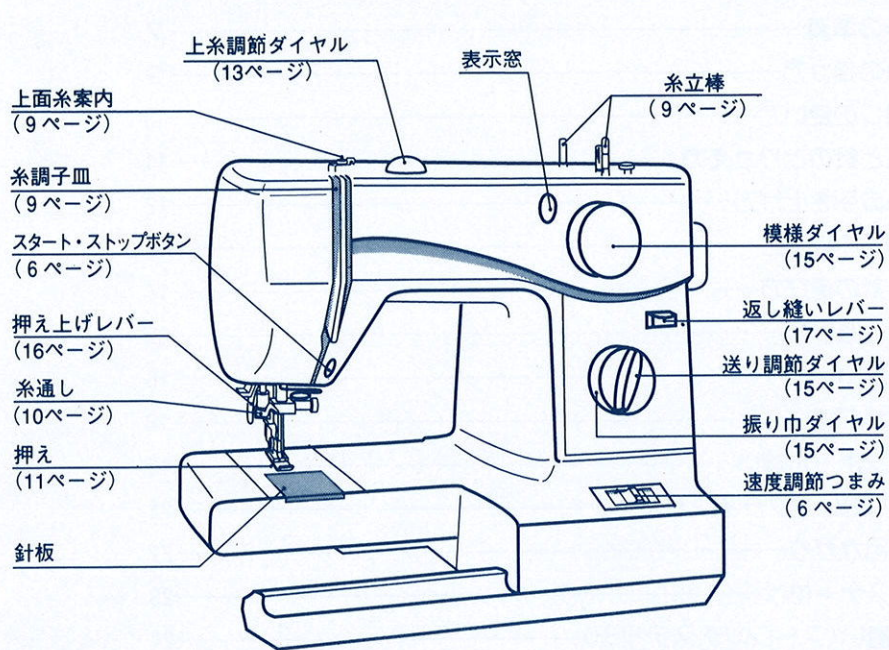
仕様

定格電圧	100 V
消費電力	85 W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ定格	15 W
寸法	幅 370mm
	高さ 300mm
	奥行き170mm
重量	8.0 kg

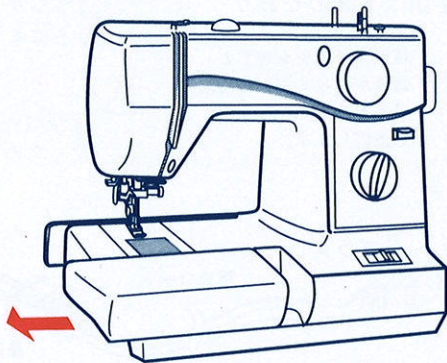
目次

●安全にご使用いただくために	表紙裏
●ミシンの取り扱い/仕様	2
●各部の名称	4
●付属箱と付属品	5
●ミシンの動かし方	6
●下糸の準備	7
●上糸の掛け方	9
●糸通しの使い方	10
●押えと針のとりかえ方	11
●下糸の引き上げ方	12
●糸調子の取り方	13
●糸と針の選び方	14
●模様を選び方	15
●直線縫い	16
●ジグザグ縫い	18
●ボタンホール縫い	19
●まつり縫い(ブラインドステッチ)	21
●裁ち目かがり	22
●ファスナー付け	23
●伸縮縫い(ストレッチステッチ)	24
●ミシンの手入れとランプの交換	25
●フットコントローラー	26
●困ったときには	27
●ミシンの調子の悪い原因と点検のしかた	28
●修理サービス要領	29

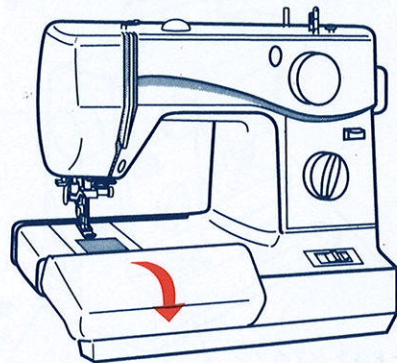
各部の名称



●補助テーブルは、左方向へ引くと
はずれます。



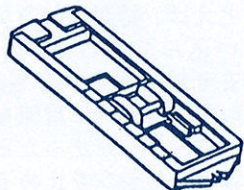
●付属品箱は、手前方向に開けて
ください。



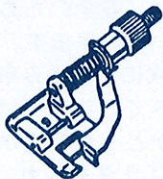
■付属部品一覧



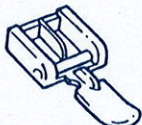
ジグザグ押え
(ミシンに付いています。)



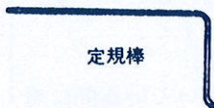
ボタンホール押え



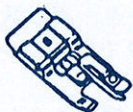
ブラインドステッチ押え



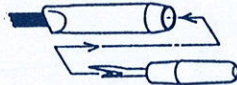
ファスナー押え



定規棒



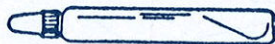
ふちかがり押え



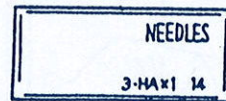
リッパー
及びブラシ



ボビン



油差し(オイル入り)



針ケース
針 3本



フェルト



ドライバー(大)



ドライバー(小)

※ミシンは安定した場所に置きます。

■電源のつなぎかた

●配線の要領は下図のとおり



警告：感電、火災を防ぐために：

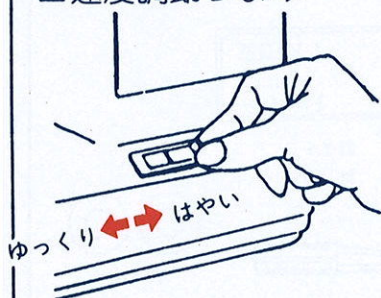
ミシンを使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントからはずし、電源スイッチを「OFF」にしてください。



注意：ケガ防止のために：

電源コードを接続するときは必ず、電源スイッチを切ってから行なってください。

■速度調節つまみ

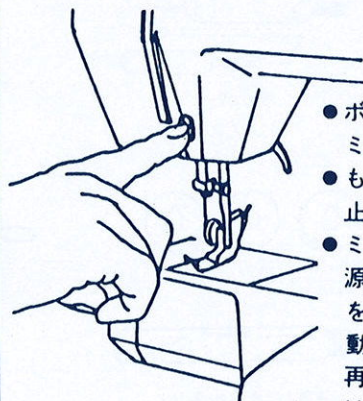


ぬいながらスピードを調節できます。



注意：ケガ防止のために；
針先には充分注意してください。

■スタート・ストップボタン



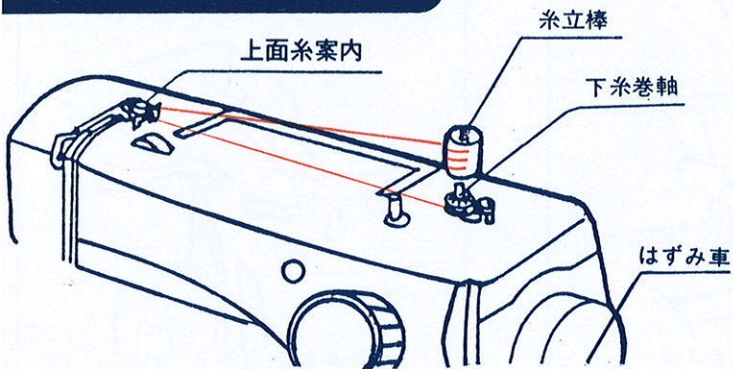
- ボタンを押すと、ミシンは動きはじめます。
- もう一度押すと、止まります。
- ミシンが動いている間に電源が切れたとき、再び電源を入れただけではミシンは動きません。再度ボタンを押すとミシンは動きます。

■自動停止装置について

● このミシンには、誤った操作などをしたとき自動的に運転を止める安全装置がついています。

● たとえば、縫製中に糸がカムにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感知し、3秒以内に自動的に電流を止めます。モーターが止ったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。安全のため電源プラグをぬいておきます。

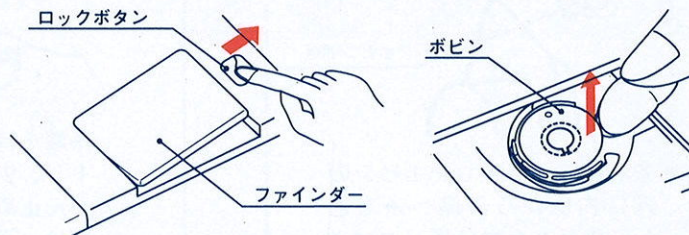
● 次に、はずみ車を手前に回してみてもミシンが動くようになったかどうかを確かめた上で、再度プラグを入れ、スタート・ストップボタンを押してください。



1. ボビンを取り出します。

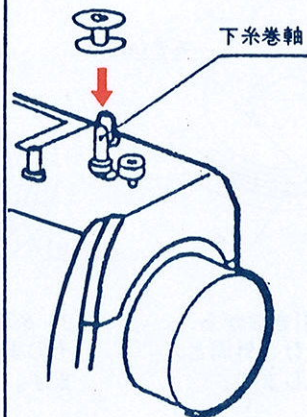
ボビンの取り出しは、針板のファインダーを開けてから行います。

ファインダーのロックボタンを右へスライドさせ、ファインダーをはずし、ボビンを取り出します。

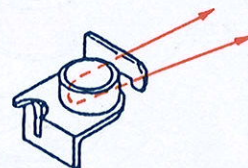


注意：ケガ防止のために；必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

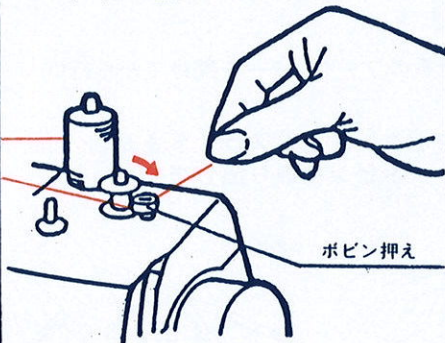
2. ボビンをセットします



3. 糸を上面糸案内にかけます



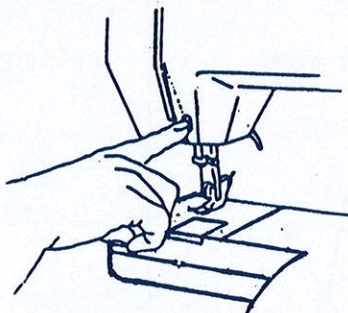
5. 下糸を巻きつけます



ポビン押え

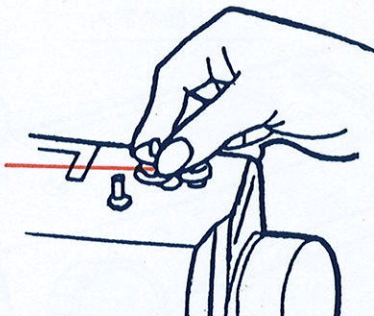
- 糸巻軸にセットしたボビンの穴に内側から外側へ糸を通し、ボビンを右に押しつけポビン押えに固定します。

6. スタートします



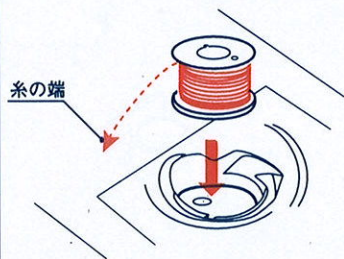
糸端を持ったままスタートし、少し巻いたらいったん止めて、余分な糸を切り、再度スタートします。

7. ストップします



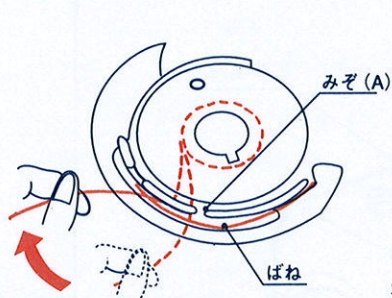
- 巻き終わったら、ストップし、ボビンを左に押しつけて糸巻き軸を元に戻し、糸を切ってボビンをはずします。

8. ミシンへセットします



糸の端

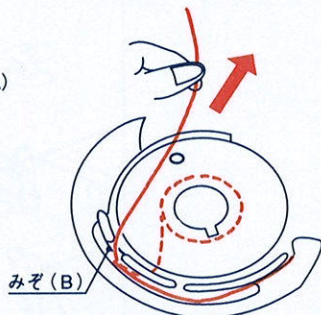
- ① ファインダーをはずし、糸の端を出してカマの中にボビンを入れます。



みぞ(A)

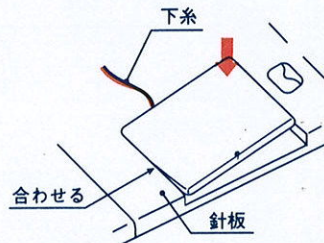
ばね

- ② 糸の端を引きながら、糸の端を出してカマの中にボビンを入れます。



みぞ(B)

- ③ 糸のみぞ(B)にかけ、そのまま向こう側へ出します。



合わせる

針板

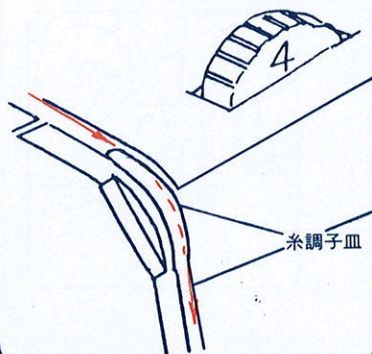
- ④ 針板とファインダーの左端を合わせてから、ファインダーを押し、固定します。下糸は10 cm位引き出しておきます。

上糸のかけ方

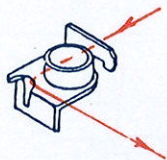
※押えを上げ、はずみ車を手前に回して天びんを一番上まであげておきます

! 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

③ 右側の糸道に糸を引きおろして、糸調子皿の間に通します。

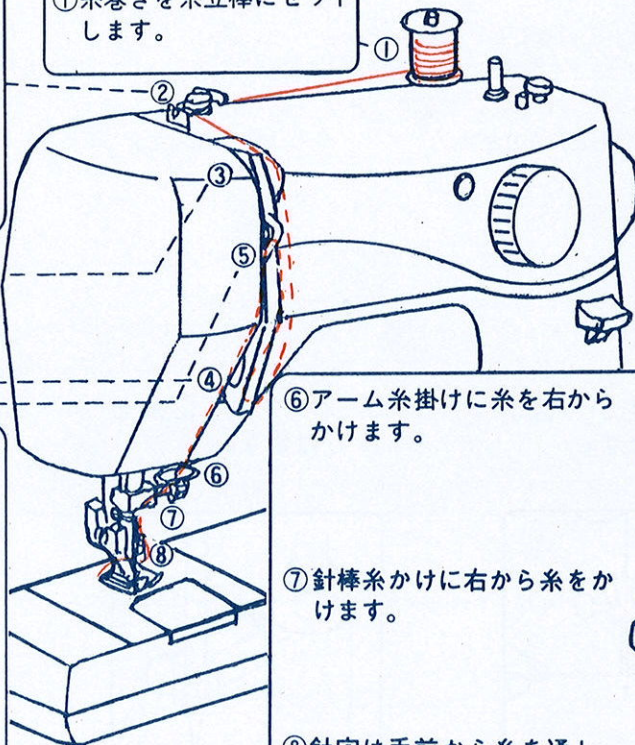


②

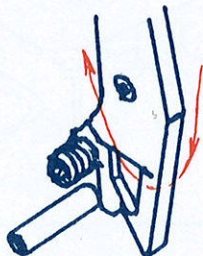


● 上面糸掛けに糸を掛けます。

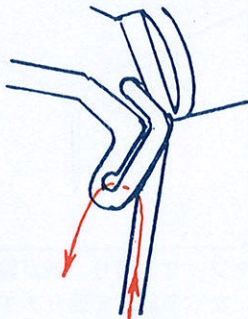
① 糸巻きを糸立棒にセットします。



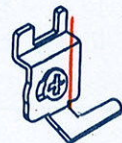
④ 糸を左側の糸道から上に引き上げると、糸取りばねに糸がかかります。



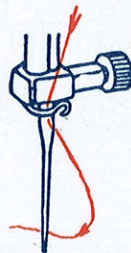
⑤ 天びんの右側から左側へ糸をかけます。



⑥ アーム糸掛けに糸を右からかけます。



⑦ 針棒糸かけに右から糸をかけます。

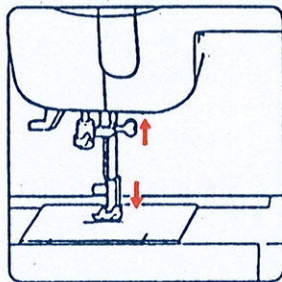


⑧ 針穴は手前から糸を通し、糸端は10cmほど出しておきます。

! 注意：ケガ防止のために；

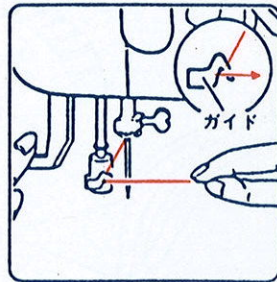
- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
 - ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。
- 糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。

1. 押えを下げます。
2. はずみ車を手前に回して針を上に出します。

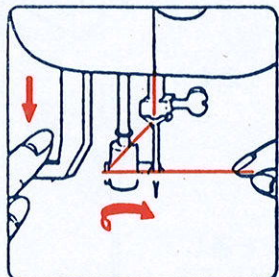


●針は11番、14番、16番が使えます。

3. 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいてきます。

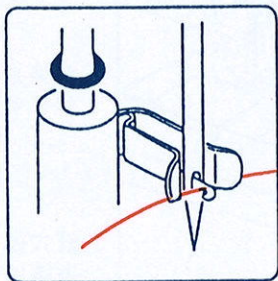


4. レバーをいっぱい下げます。

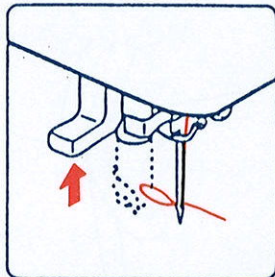


●糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

5. フックの下に糸をかけます。

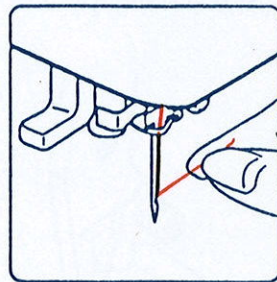


6. 糸をかるく持ってレバーをはなします。

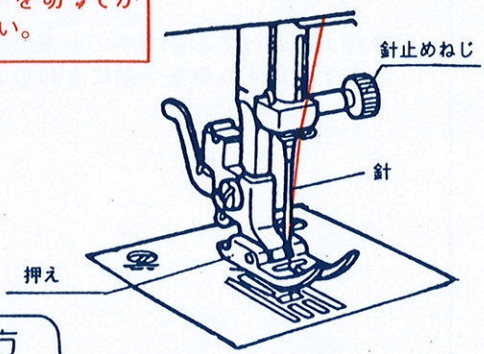


●フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

7. 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。

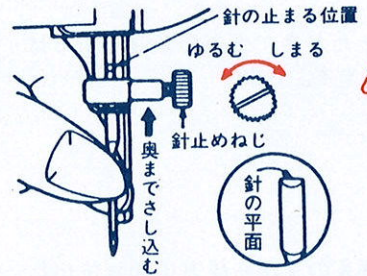


注意：ケガ防止のために；必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



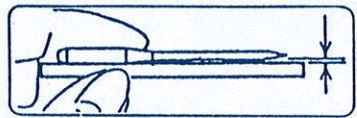
針の取り付け方

はずみ車を手前に回して針を一番上に上げます。針止めねじをゆるめ、針を下に引き抜きます。



注意：ケガ防止のために；曲がった針や、先がつぶれた針は、危険ですのでご使用にならないでください。

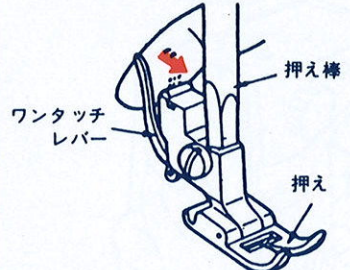
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



●裏面(平らな面)を向う側(針棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めねじをドライバーで締めつけます。

針は家庭用ミシン針をご使用ください。

- 押えの交換 (はずみ車を手前に回して針を一番上にあげます。)
- 押えのはずし方
- 押えの取り付け方

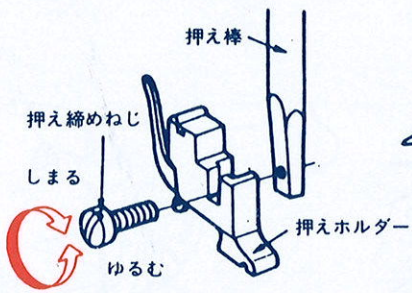


●押え上げレバーを上げて押えを上げてから、ワントッチレバーを手前に引くとはずれます。



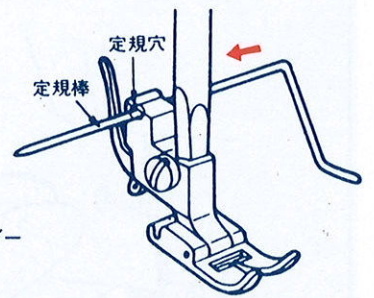
●取り付けは、押えホルダーのピンみぞの下に押えピンがくるようにして押えを静かにおろすとセットされます。

■押えホルダーのはずし方



●押えを上げておき、押えホルダーの押え締めねじをゆるめるとはずれます。取り付けは押えホルダーを押え棒にはめ、押え締めねじをドライバーで強く締めます。

■定規棒の取り付け方



●定規棒は押えホルダーの定規穴に、図のように差し込みます。
●定規棒はしるしの線や前に縫ったステッチに平行に縫う時に使うと便利です。

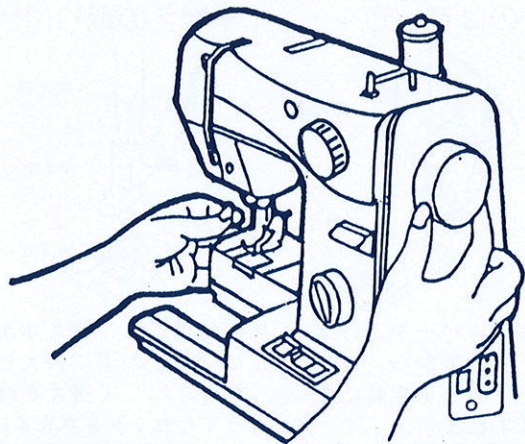


図 1

- 押えはあげておき左手で上糸の端をややゆるめて持ち、右手ではずみ車を手前にまわします。(図 1)

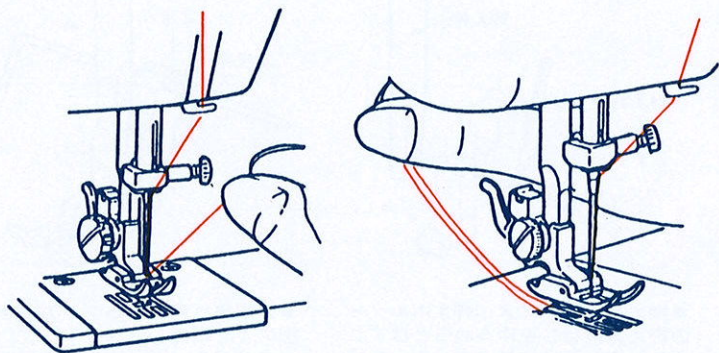


図 2

図 3

- 針が一番上まであがったとき、上糸の糸端を引っばると下糸があがってきます。(図 2)
- 上糸下糸をそろえて押えの下から後方に10cm位だしておきます。(図 3)

■糸の調子のとり方

- 糸調子（上糸と下糸のしまり具合）は布の厚さや糸の太さなどによって、多少変わりますから端布で試し縫いをして調節してください。
- きれいに縫いあげるには、試し縫いをして上糸と下糸の調子を見てください。糸調子は①のように上糸と下糸が布地の中心でからみ合っているのがよい状態です。糸調子がよくないと、②③のような状態になります。

- 上糸の強さの標準
上糸調節ダイヤル目盛3～4前後が目安です。

①正しい糸調子



〔糸が布の中央でからみ合っている〕

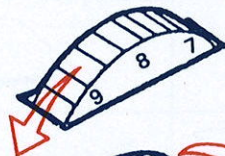
②上糸が強すぎる



③上糸が弱すぎる



上糸調節ダイヤル



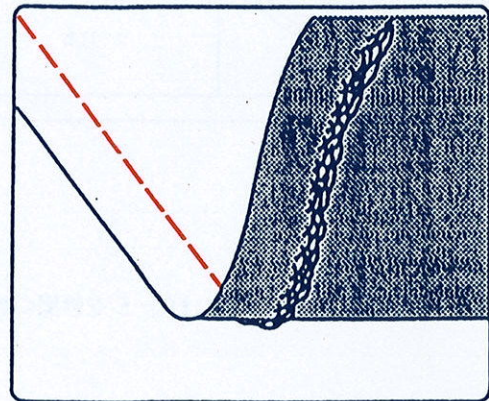
上糸調子を弱くする。
〔小さい数字の方へ回す。〕



上糸調子を強くする。
〔大きい数字の方へ回す。〕

●こんな場合は……

図のように布地の上側は普通に縫えて、下側がタオル地のようになるときは、上糸の通し方（とくに、糸調子皿）が違います。9ページをご覧くださいの上、正しくかけ直してください。



糸と針の選び方



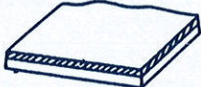



■針と布と糸の関係

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。



注意：ケガ防止のために：

針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

		薄地		普通地		厚地	
							
布地		デシン、ジョーゼット、 ローン、ギンガムなど	トリコット	サージ、ジャガード、 カシミア、ブロードなど	薄手の ジャージ	デニム、コート地 コールテンなど	ジャージ
糸		カタン糸 80~100番 絹糸 } 50~90番 化繊糸 }	化繊糸60番	カタン糸 50~80番 絹糸 } 50~60番 化繊糸 }	絹糸50番 化繊糸60番	カタン糸 } 絹糸 } 50番 化繊糸 }	絹糸 } 化繊糸 } 50番
針		9~11番	11番 (ニット針)	11~14番	11番 (ニット針)	14~16番	11~14番 (ニット針)

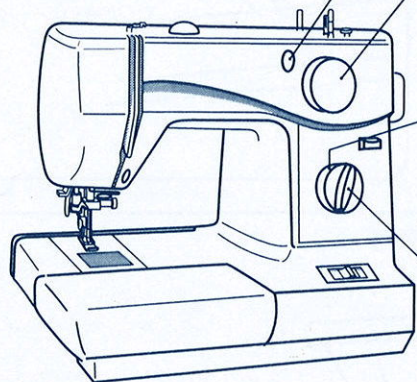
●針の取りかえ方は11ページを参照ください。

模様の選び方

■模様選択ダイヤルを回し、お望みの模様を表示窓に表示して下さい。

※模様選択ダイヤルを回すときは、針を布から上げて下さい。

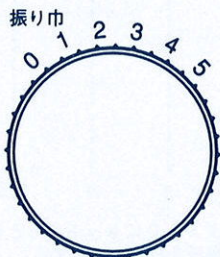
■振り巾ダイヤルと送り調節ダイヤルは各模様に合わせて、セットして下さい。



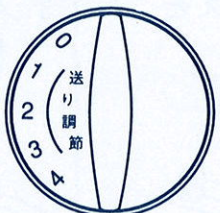
表示窓



模様選択ダイヤル



振り巾ダイヤル



送り調節ダイヤル



ボタンホール縫い
直線及び
ジグザグ縫い



点線ジグザグ縫い



ジグザグブラインドステッチ (まつり縫い)



オーバキャストイング (裁ち目かがり)
ステッチ



ハニカムステッチ



伸縮直線縫い
伸縮ジグザグ縫い



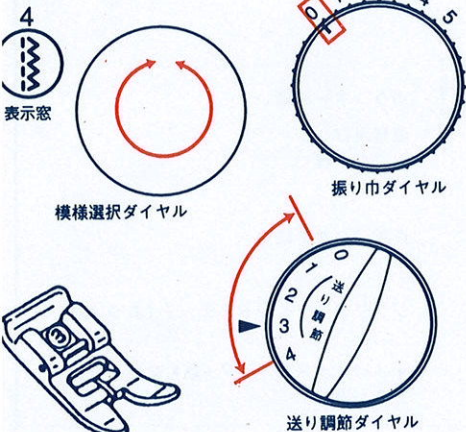
注意：ケガ防止のために；

模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げて下さい。

針が布地に刺っている状態では、針が

折れ、ケガをする原因となることがあります。

■セットの仕方

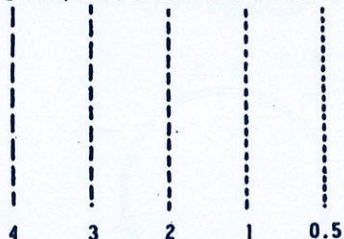


●縫い目の長さの調節は送り調節ダイヤル
 でします。

普通は目盛の2～4が標準ですが布地
 の厚さや糸の太さ、縫う目的などで変
 りますので、試し縫いをして調節して
 ください。

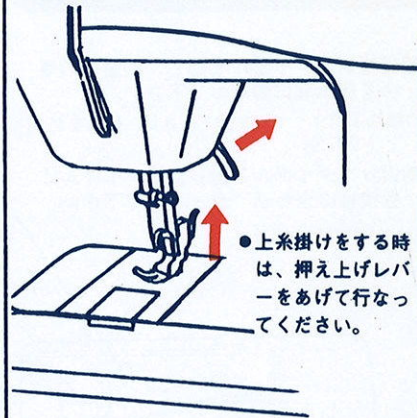
●振り巾ダイヤルは0にセットします。

0以外に合わせるとジグザグになります。



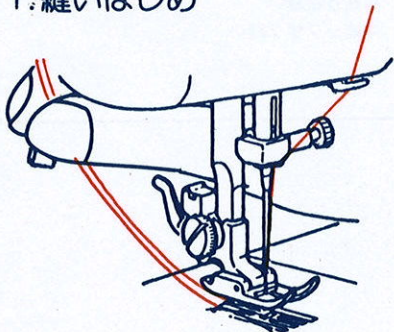
送り調節ダイヤルを0にセットすると布
 は動かず同じ場所を針がさします。

■押え上げレバー



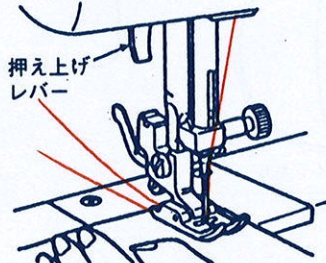
●上糸掛けをする時
 は、押え上げレバ
 ーをあげて行なっ
 てください。

1. 縫いはじめ



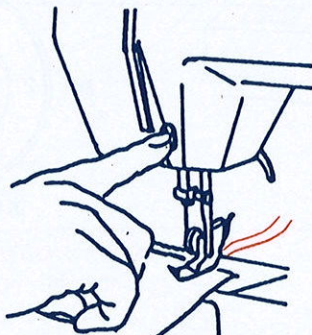
●押え上げレバーをあげておき、上糸
 と下糸を向う側へそろえて出します。

2. 布を入れて押えを
 さげます



●はずみ車を回して針を布地
 にさします。
 押え上げレバーを下げて、
 押えを下げます。

3. スタートします

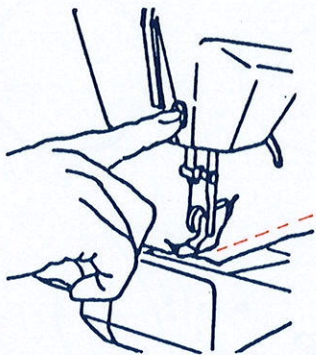


●スタート・ストップボタンを
 押してスタートします。



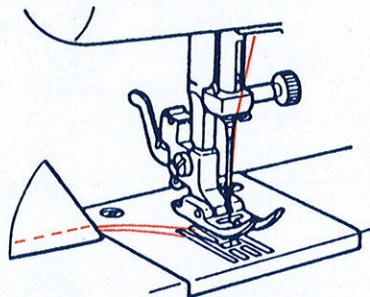
注意：ケガ防止のために；
 布地はミシンによって自
 動的に送られますので無
 理に引っ張ったり、押し
 たりしないでください。
 針が折れ、ケガの原因に
 なることがあります。

4. ストップします



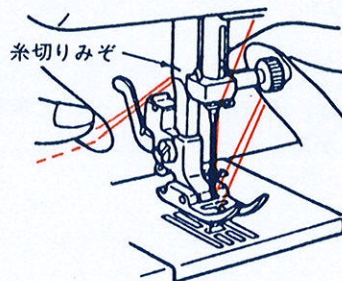
- スタート・ストップボタンを押しストップします。

5. 押えをあげます



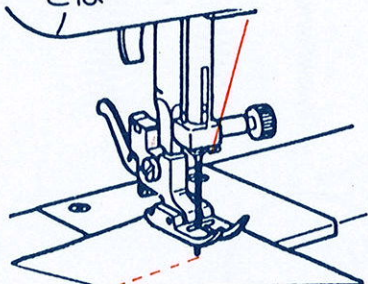
- はずみ車を手前に回して針を一番上にあげます。
(注) 針が途中のときははずすと、糸が抜けてこないことがあります。

6. 引き出して糸を切ります



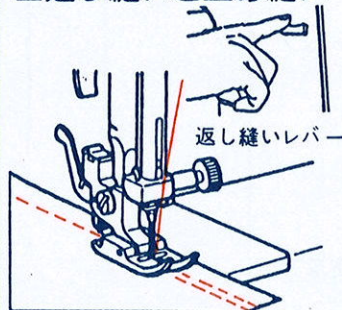
- 布地をはずしたら糸の両端を持ち糸切りみぞにかけて引き出すと、糸が切れます。

■ 布の方向を変えると きは-----



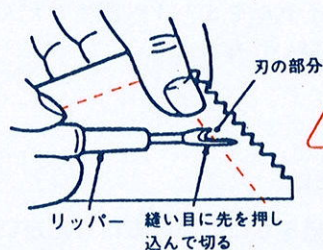
- ① ミシンを止めて布地に針をさす。② 押え上げをあげる。③ 縫い方向を変える。④ 押え上げをおろす。⑤ 静かに縫いはじめる。

■ 返し縫いと止め縫い



- 縫い始め、縫い終りの止め縫いにお使いください。

■ リッパーの使い方



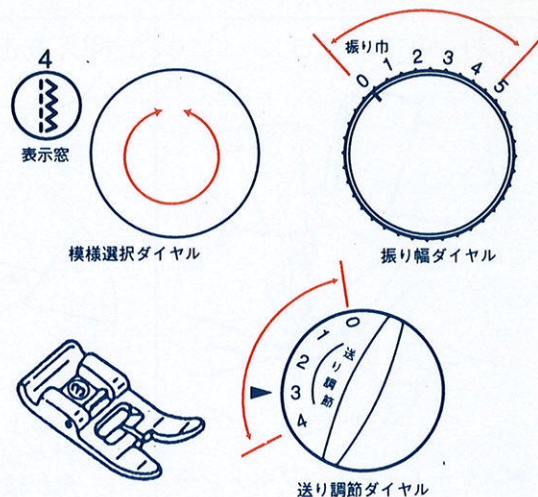
- 誤って縫った糸をほどくときは、付属のリッパーをお使いください。



注意：ケガ防止のために；リッパーで糸をほぐすときは、リッパーの先端に手や指をおかないでください。すべったとき、ケガをする恐れがあります。

●ミシンのセットの仕方

- 各部を右図のようにセットします。
- ジグザグ縫いの糸調子は、直線縫いにくらべ、上糸をやや弱めにし、うらに上糸がでるくらいが適当です。

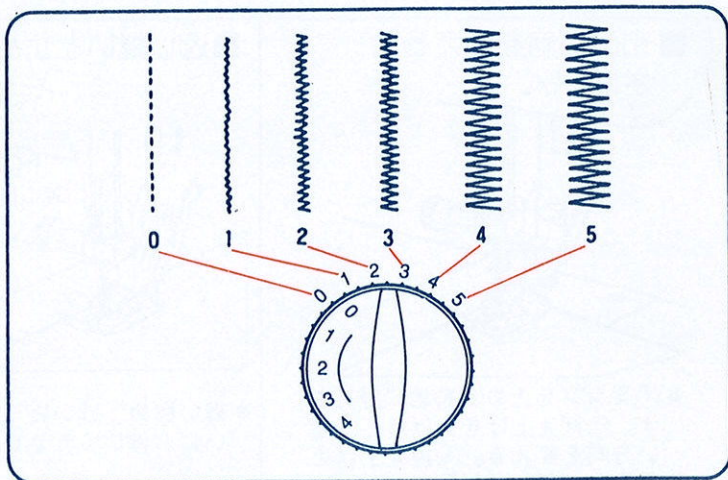


●ジグザグ模様

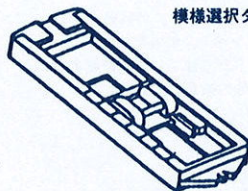
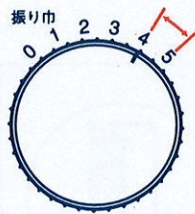
- ジグザグ巾は振り巾ダイヤルを5～1へ回すとだんだん狭くなり、0に合わすと直線縫いになります。

●送り調節ダイヤルの働きは

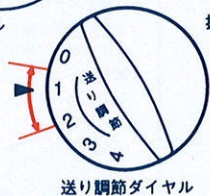
- 送り調節ダイヤルの目盛を0に近づけるにしたがい、密着したジグザグ縫いになります。



ボタンホール(穴かがり)の縫い方(1)



模様選択ダイヤル

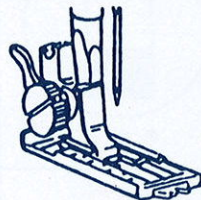


振り巾ダイヤル

- ミシンのセットの仕方
左図のようにセットします
- 振り巾は4~5
- 送りは0.5~2にします

注意: ケガ防止のために;
押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

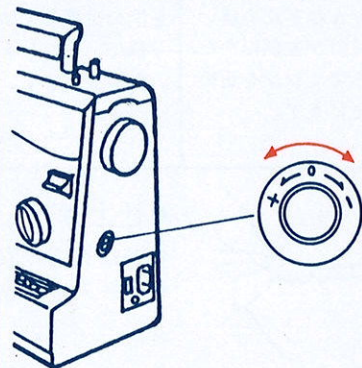
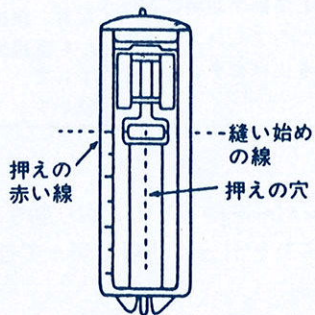
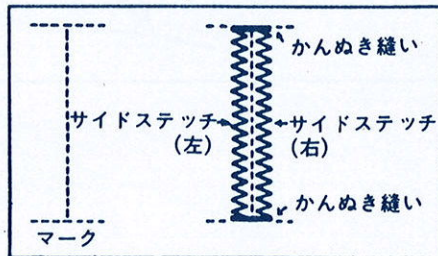
- 準備
- ①普通の押えをはずし、ボタンホール押えを取りつけます。
- 押えは右図のように手前いっぱい引き、一番奥の目盛に合うようにして縫い始めます。



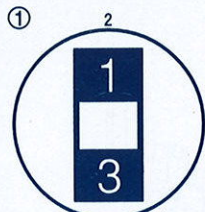
②ボタンの大きさと厚さ、布地の種類に応じてボタン穴の長さをきめます。
ボタン穴の長さ: ボタンの直径+厚み
これを布地にマークします。

③布地をボタンホール押えの下におき、押えの赤い線を布地の縫い始めの線に合わせ、布地のボタン穴の中心線が押えの穴の中央になるようにして押えを下げます。

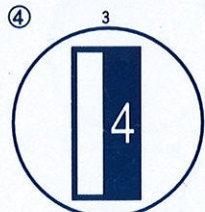
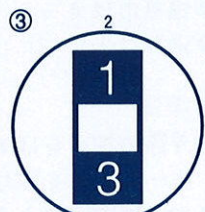
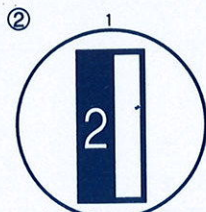
■ボタンホール左右バランス調節ねじ
ボタンホールの左と右の縫い目の長さが違うときは、ミシンの右横についているボタンホール調整つまみをわずかに回しながら調整してください。



ダイヤルのセツト順



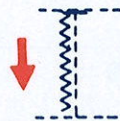
表示窓



縫い方



ミシンを運転して5～6針かんねき止め縫いをして針が左側にきたところでミシンを止め、針を上げます。



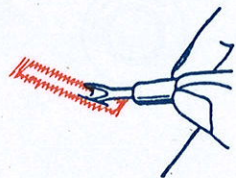
ミシンを運転して左側を図の位置までゆっくり縫い、ミシンを止め、針を上げます。



ミシンを運転して5～6針かんねき止め縫いをして針が右側にきたところでミシンを止め、針を上げます。



左側の縫い目と平行になるようにた右側をかん止め位置までゆっくり縫います。
なお、模様選択ダイヤルを直線縫い：にセツトして、1～2針止め縫いをしてください。

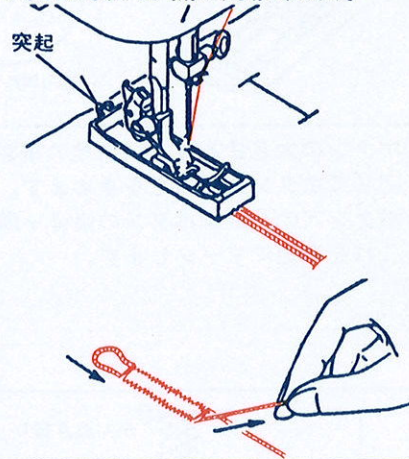


- 仕上げ方
- 糸端を切り取り、リッパーを使って穴を開けます。
- 芯糸入りの場合は、芯糸を引っぱり端を切って仕上げます。

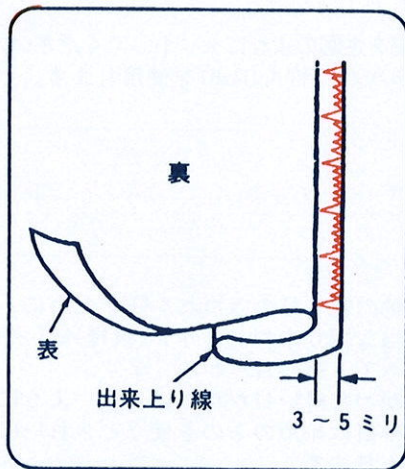
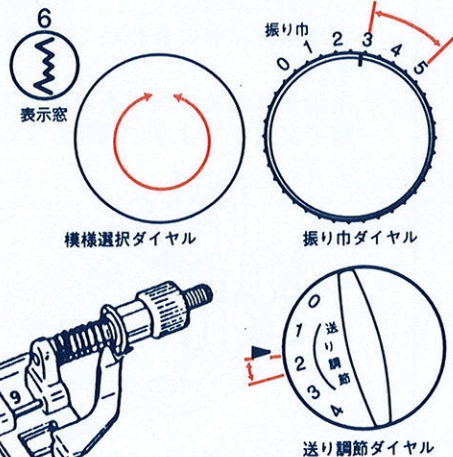
芯糸入りボタンホール

芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使用します。

芯糸をボタンホールガイドのうしろの突起に引っかけ、ガイドの下を通して手前に引きます。この状態で穴かがりすると芯糸入りのボタンホールが出来ます。縫い終わったら芯糸をガイドからはずし、糸の端を引いてたるみをなくし、余分の糸を切り取ります。



注意：ケガ防止のために；
リッパーで穴を開くとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべった時、ケガをする恐れがあります。

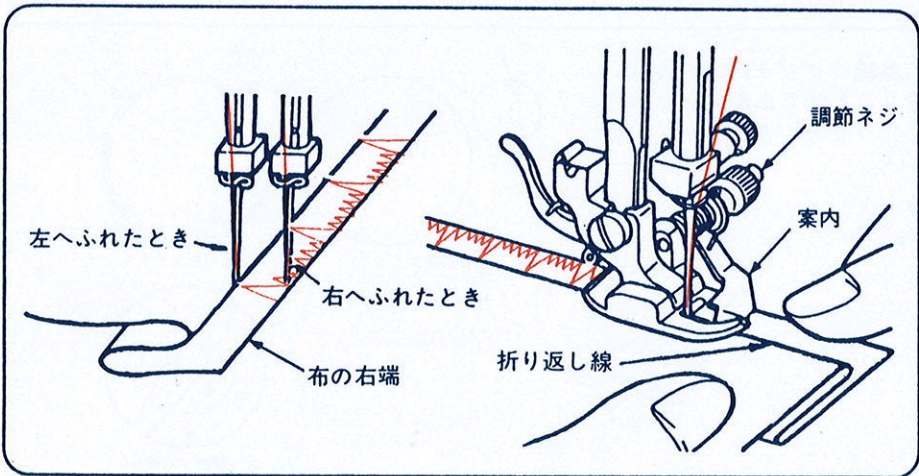


- ミシンのセットの仕方
左図のようにセットします



注意：ケガ防止のために；
押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

- 振り巾3~5
- 送り1.5~2
- 縫い方1
 - 折り方は図のようにして右側にかがりしろを3~5ミリとります。



- 縫い方2
 - 針が左へ振れたときは折り返し線の織糸1~2本をさすように、右へ振れたときには布の右はしすれすれになるように布をおきます。
- 縫い方
 - ジャージ、トリコットなど伸縮性のある布地にも用いられる縫い方で、ふちかがりも同時にできます。

裁ち目かがり(ふちかがり)

●ミシンのセットの仕方

各部を左図のようにセットしてください。
ふちかがり押え(No.8)を使用します。

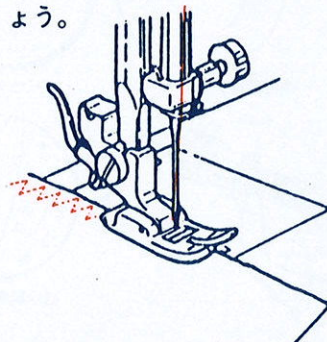


注意：ケガ防止のために；
押えの交換は必ず電源スイッチ
を切ってから行なってください。

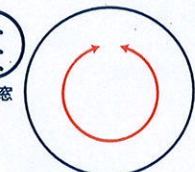
- 布地の裁ち目のほつれを防ぐために、
適当な振り巾のジグザグ(模様)縫いを使
って、裁ち目をかがります。
- かかった縫い目がかさばらないように
糸や針は細めのものを使うときれいに
仕上がります。

●縫い方

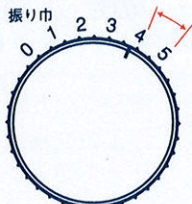
- 布端をガイドに合わせて縫いま
す。
糸調子は弱めで上下糸が布地の
端で交差するように調節しまし
よう。



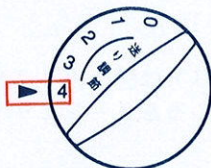
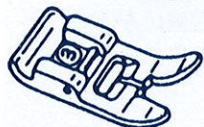
表示窓



模様選択ダイヤル



振り巾ダイヤル



送り調節ダイヤル



- 振り巾4～5
- 送り3～4

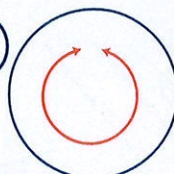


注意：ケガ防止のために；
振り巾を4より小さくして使用
したり、ふちかがり押えのまま
他の模様を使いますと針が折れ
危険です。

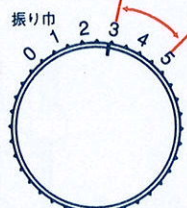
- 伸縮性布地に点線ジグザグの模様を使
用しても、縫うことができます。
この場合は必ずジグザグ押え(No.3)を使
用してください。
- 振り巾3～5
- 送り0.5～1.5



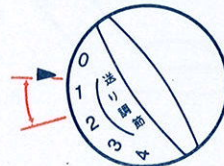
表示窓



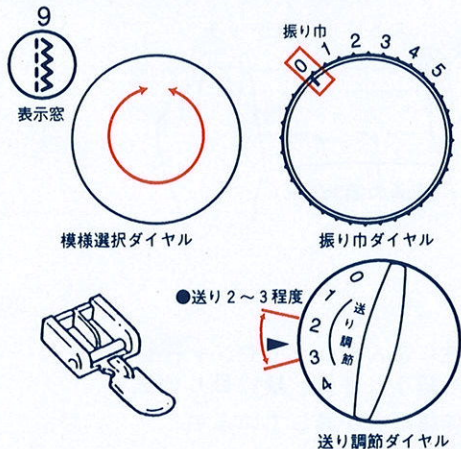
模様選択ダイヤル



振り巾ダイヤル



送り調節ダイヤル



●ミシンのセットの仕方

各部を左図のようにセットしてください。

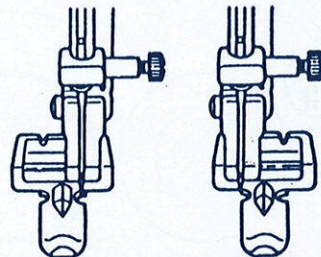


注意：ケガ防止のために；

- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ファスナー押えは必ず直線だけにお使いください。
ほかの模様では、針が押えに当たって折れ危険です。

- ファスナーは機能的なうえ、装飾にもなります。
ファスナー押えを使ってゆがみや縮みのない、きれいな縫い目に仕上げてください。

●ファスナー押えの取り付け方



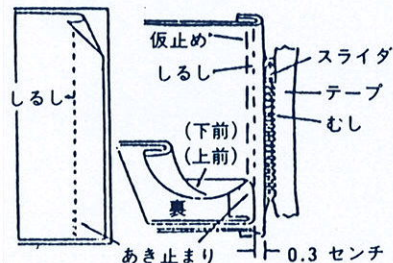
ファスナーの左側を縫うとき

ファスナーの右側を縫うとき

- 縫う側に応じて上図のようにファスナー押えの位置を移動してください。

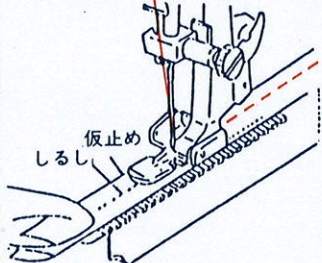
1. 準備

- ① 布を中表に合わせ、あき止まりから布端まで縫います。(あき止まりはしっかり返し縫いをしておきましょう。)
- ② 下前の縫いしろをしるしより0.3センチ出してアイロンをかけ、テープを仮止めします。



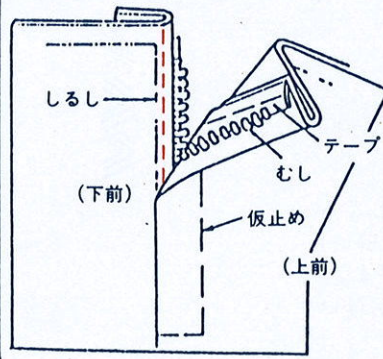
2. 左側を縫うときは…

- ① 押えを左に寄せてセットします。
- ② スライダーは途中まであげ、縫いはじめます。
- ③ 針をさしたまま、押えを上げ、スライダーを向う側へ送ります。
- ④ あき止まりまで縫って、しっかり返し縫いをしておきます。



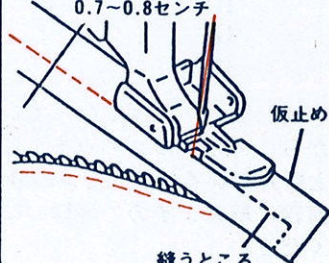
3. 右側を縫うときの準備

- ① 下前のしるしに上前を合わせて右側のテープを仮止めします。



4. 右側を縫うときは…

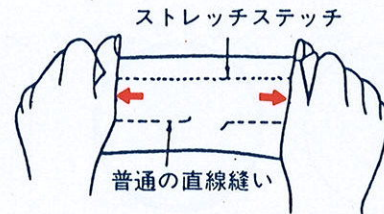
- ① 押えを右側に移動します。
- ② スライダーは途中まであげ、上前(ステッチ巾0.7~0.8センチ)を縫います。途中でスライダーを向う側にしてください。
- ③ あき止りをしっかり返し縫いします。



伸縮縫い(ストレッチステッチ)

●ミシンのセットの仕方

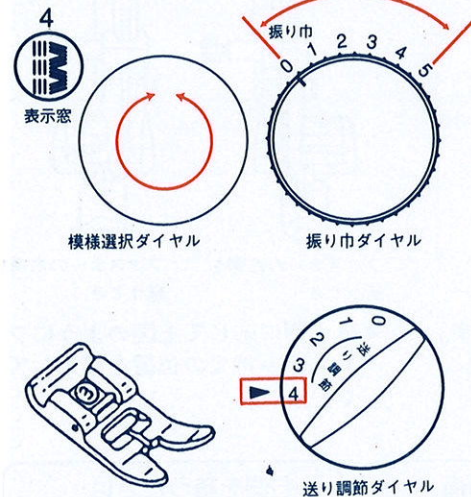
左図のようにセットします



- 伸縮性に富んだニットやジャージなどを縫うときは、縫い目も伸縮する伸縮縫いが適しています。

- 振り巾0~5
0では直線

- 送り4



■伸縮直線縫い



■伸縮ジグザグ縫い



◆縫い目が、三本になっているところから、トリプルステッチ、(三重縫い)と呼んでいる代表的な伸縮縫いです。直線に縫えますので地縫いにもお使いください。

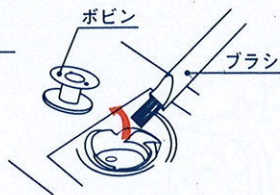
ミシンの手入れ ランプの交換

警告：感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

■手入れの仕方

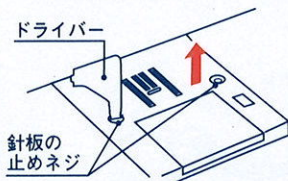
★カマの掃除

- ① ファインダーをはずしてボピンを取り出し、ブラシで糸クズやホコリを掃除します。

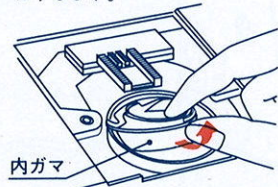


★カマの分解

- ① 針板の止めネジ(2ヶ所)を付属のドライバーではずし、針板を取ります。

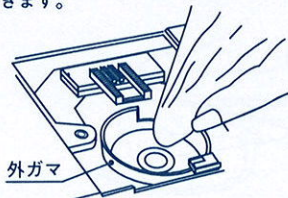


- ② ボピンを取り出してから、内ガマの手前を上へ引きながらはずします。

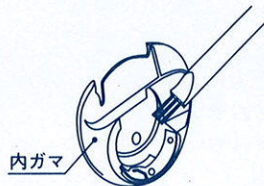


★カマと送り歯の掃除

- ① 送り歯のゴミをブラシで払い、外ガマの中央部を布などで軽く拭きます。

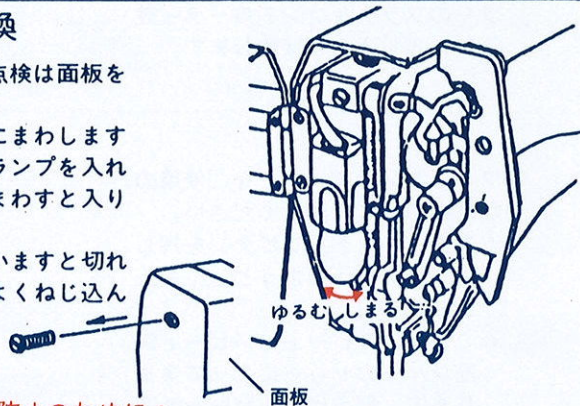


- ② 内ガマをブラシで掃除し、布で軽く拭きます。



■ランプの交換

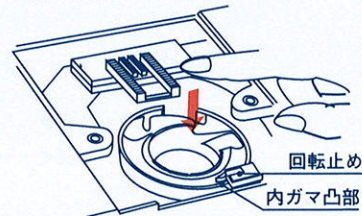
- ランプの交換や点検は面板を開けてください。
ランプは左方向にまわしますとはずれます。ランプを入れる時は右方向にまわすと入ります。
電球がゆるんでいますと切れやすくなるのでよくねじ込んでおいてください。



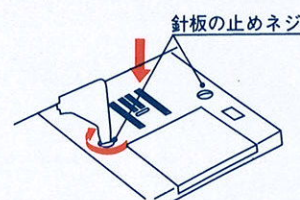
注意：ケガ防止のために；
長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。電源プラグを抜いて十分冷えてから交換してください。

★カマの組立て

- ① 内ガマを差し込み、内ガマの凸部を回転止めの左側に納めます。



- ② ボピンを入れ、2か所の針板の止めネジを締めます。



☆フットコントローラーを使いますとミシンのスピードを足で調節することができます。

○右図のように、フットコントローラーのプラグをコントローラー差込口に差し込んで接続します。

○フットコントローラーをご使用の際は次の点にご注意ください。

☆スタートストップボタンを押してミシンを止めようとしても止まりません。

☆ミシンのスピードはスピード調節レバーのセットによって決まります。例えば、レバーを低速にセットしたとき、コントローラーをふかく踏み込んでもスピードは低速のままになります。



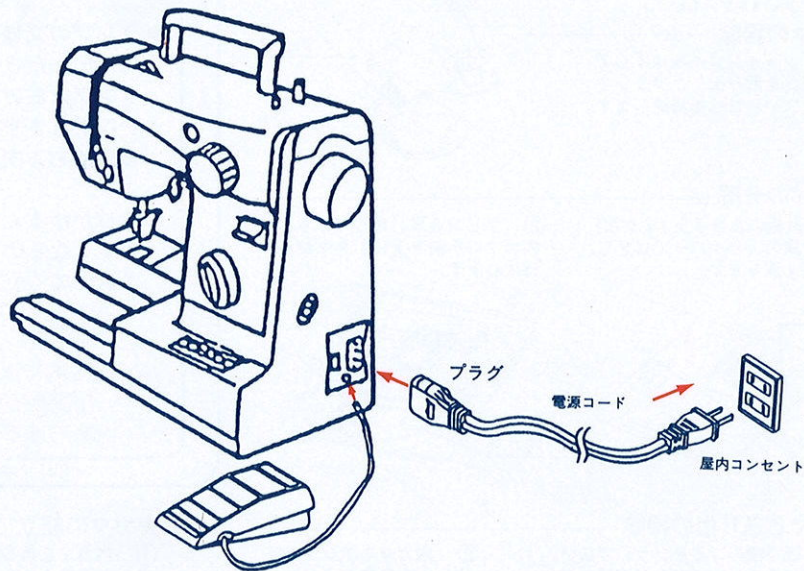
警告：感電、火災を防ぐために；
コントローラーは、落としたり、座ぶとんの下において使用しないで下さい。



注意：ケガ防止のために；

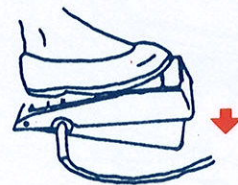
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行なって下さい。

1. コントローラーの接続の仕方

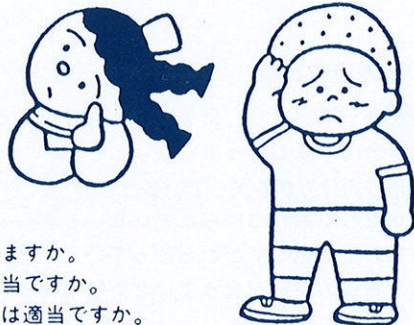


2. コントローラーの使い方

かるく踏む——スピードおそい
ふかく踏む——スピードはやい



■困った時には……



まず次の事を認識してください。
上糸の掛け方の順序はあっていますか。
針、糸の太さと布地の厚さは適当ですか。
下糸の強さに対して上糸の強さは適当ですか。

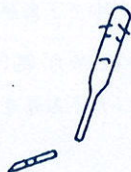
● 縫い目がきれいに出不い ●

- 上糸は正しくセットされていますか。
- 針は曲がっていませんか。
- 上糸調子は適正ですか。
- ボビンの巻き方・入れ方が間違っていますか。
- 布に対して糸が太すぎませんか。
- カマの掃除や注油をおこなっていませんか。
- 布をひっぱっていませんか。



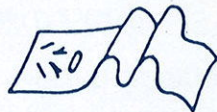
● 針が折れる・曲がる ●

- 上糸は正しくセットされていますか。
- 針は正しくついていますか。
- 布に対して針が細すぎませんか。
- 運針中や布をぬきとる時に、引っばっていませんか。
- 各部の操作をもう一度しらべてください。



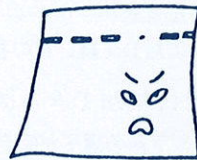
● 布地が進まない ●

- 糸がカマにからんでいませんか。



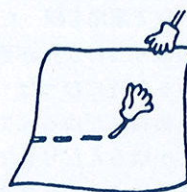
● 縫い目が飛ぶ ●

- 上糸は正しくセットされていますか。
- 針は曲がっていませんか。
- 針は正しくついていますか。
- 上糸調子は適正ですか。
- 布と糸と針とのバランスはとれていますか。



● 上糸が切れる ●

- 上糸は正しくセットされていますか。
- 針が曲がっていませんか。
- 針は正しくついていますか。
- 上糸調子が強すぎませんか。
- ボビンの巻き方・入れ方が間違っていますか。
- 布地と針と糸とのバランスはとれていますか。



● はずみ車 ● ● 音大きい ●

- 送り歯の間にゴミやホコリがたまっていますか。
- カマの掃除や注油をもう一度。



■ミシンの調子の悪い原因と点検のしかた

布地が縮むのは.....	ページ	縫い目かとぶのは.....	ページ
上糸の調子がつよすぎるとき.....	13	針が曲っていたり、針先がつぶれているとき.....	11
上糸の掛け方がちがっていたり、余分な個所にひっかかっているとき.....	9	針が糸の太さと合っていないとき.....	14
布地に対して縫い目の長さが長すぎるとき.....	16	上糸の掛け方がちがっているとき.....	9
縫い目に輪ができるのは.....		針が正しく取りつけられていないとき.....	11
上糸、下糸の調子が完全でないとき.....	13	針板の下に糸くずがからまっているとき.....	25
針が折れるのは.....		針と布糸の材質が合っていない時.....	14
細い針で厚地を縫ったり、細い針に太い糸を使ったとき.....	14	上糸が切れるのは.....	
針の取りつけかたが悪かったり、曲った針を使用したとき.....	11	上糸の掛け方がちがっているとき.....	9
布地を無理にひっぱったとき.....	16	針が曲がっていたり、先端がつぶれているとき.....	11
針止めねじがゆるんでいるとき.....	11	針が糸の太さと合っていないとき.....	14
押えがゆるんだりして針にあたったとき.....	11	上糸の調子が強すぎるとき.....	13
針を布地にさしたまま、模様選択ダイヤルを回したとき.....	15	針の取りつけかたがちがっているとき.....	11
布地を送らないのは.....		糸が必要以外のところからみついているとき.....	9
送り調節ダイヤルが0の位置にセットされているとき.....	16	下糸がきれいののは.....	
		下糸の調子が強すぎるとき.....	8
		カマの中で下糸がからみあっているとき.....	25
		ボビンに糸が巻けないのは.....	
		ボビンが下糸巻き軸に完全にさしこまれていないとき.....	7

※この項に記載されている項目以外の不調、又は部品交換、電気系統の故障の修理サービス
はご購入店又は「お客様相談係」(29ページ参照)におたずねください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入日から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をよくお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、「お客様相談係」宛お申し越してください。

●修理部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できるような体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
- イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ. 浸水、冠水、火災など天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
- 二. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって修復できないことがあります。
 3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。



株式会社 **ジューキ**

〒102 東京都千代田区九段北 1-11-11
TEL 03 (3265) 2851

お客様へ _____
お買い上げ日、販売店名を記入されておきますと、修理などのときに便利です。

お買い上げ日	年 月 日
販売店名	
	TEL

¥300